

令和 3 年



県と市町の情報ホットライン

かがわ

vol.
112

発行●(公財)香川県市町村振興協会 監修●香川県政策部自治振興課
HP●<http://chousonkai.or.jp/shinkou/publication/>

まちづくり最前線/東かがわ市

My Town

地域の魅力を世界に発信する"東かがわ市わくわく課"

株式会社HYAKUSHO 代表取締役 湯川 致光さん

Top Message

心の服を脱ぎ、まちにダイブせよ!

地域の元気印/直島町

People

うい・らぶ・なおしま



アートの島として、今や世界中から注目を集める直島。

その直島の自然を守り、より良い未来につなげたいと中根リーダー、堀口サプリーダーを中心に活動を続けているのが「うい・らぶ・なおしま」のみなさん。毎月一回定例会を開催し、「エコTシャツアート展」や「なおしま自然探検隊」などの活動をしています。



東かがわ市



市外のノウハウで市民の夢が花開く！ 地域の魅力を世界に発信する ”東かがわ市わくわく課”

東かがわ市では、地域の魅力向上や課題の解決につながる企画を立案・実行するために、昨年12月、地域づくりの任意団体”東かがわ市わくわく課”が設立されました。今回は、わくわく課の課長に就任した東かがわ市創生総合戦略アドバイザーの山下翔一氏にお話を伺います。

思い切ったチャレンジのために 任意団体として誕生

山下翔一氏は、簡単な操作でホームページが作成できる株式会社ペライチの創立者・現会長であり、多くの法人等の代表・役員・顧問を務めています。このネットワークを活かし、地方にとつてメリットのあるプロジェクトを次々と生み出しており、東かがわ市で開催された「5年後の東かがわ市のために」という対談イベントをきっかけに東かがわ市創生総合戦略アドバイザーに就任されました。

山下氏が東かがわ市創生総合戦略アドバイザーに就任すると同時に、東かがわ

市役所の外部組織として「東かがわ市わくわく課」が立ち上がりました。これは、地域の魅力向上などにつながる企画を立案し実行するための任意団体の立ち上げについて、市民からも山下氏に要望があつたことがきっかけで、市民の主体性を後押しするような任意団体の在り方を、山下氏と東かがわ市役所の間で協議した結果でした。

わくわく課の

メンバーは、発足

当時は知り合い

による口コミで



上村東かがわ市長から正式にアドバイザーの委嘱を受ける山下氏。

地域で新たなプロジェクト を成功させるには？

佐賀県出身の山下課長は、「地方は何かを新しく始めるという経験が歴史的にも少なく、信用を受け継ぐ文化を

広がっていました。わくわく課のコミュニティは、オンラインで世界に繋がっているため、現在では約800名超まで集まり、うち2〜3割が香川県内に在、その他が香川県内出身者も含めた香川県外在住者となっています。ここには、上村東かがわ市長もメンバーの一人として名前を連ねています。



左から、わくわく課県外メンバーで株式会社CARCH(カーチ)代表取締役 中村 太一さん、わくわく課メンバーでもある東かがわ市長 上村 一郎さん、わくわく課課長で東かがわ市創生総合戦略アドバイザー 山下 翔一さん、わくわく課メンバーで協同組合三本松商店街代表理事 上原 養敏さん、東かがわ市総務部 財務課 経営グループリーダー 副主幹 定好 陽三さん。



リーズナブルな価格でしとり動物園の好きな場所でワーケーションができる「ZOOワーケーション」。ズーでズームもできます。バックに象やキリンが動き回っているなんてクールです。



より良いデジタル化のために一般社団法人ウェブ解析士協会と株式会社ベライチ、わくわく課が中心になって管理運営を行ったオンラインイベント「デジタルタウン:東かがわDX」。



3月14日に行われたわくわく課の発足記者会見がしとり動物園であったことから誕生した新名物「白とら丸」。地元の和菓子屋さんの銘菓が新たなスタイルで変身したホワイトタイガーチョコレートパイ饅頭。

大切に守ってきました。ですから新しいことに不安を抱きやすいのです」と地方の現状を促えています。

そこで、まず心がけたのは、地域内を極力騒がせないということ。「プロジェクトを立ち上げる際、先に声高にアナウンスすると、当然、不安に思う方がおられます。ある程度企画が固まった段階で、しかるべきところを通して、地域に落とすようにしています」。また、山下課長は、機会があるごとに東かがわ市を訪れ、より多くの市民と胸襟を開いて話をし、市議会や商工会、さまざまな組合、市職員、その他プロジェクトを進めるためのキーマンの方々には直接、顔を合わせ丁寧な説明を心がけています。

アイデアの採用に関しては、わくわく課のメンバーがやりたいと思ったものをお互いに応援し合ってクリエーションしていきます。「意味があるかどうか、収益が見込めるかは、後で考えれば良いのです。何でもアイデアが実現するという形になれば、何でもできるという思いが生まれ、やりたいことを口に出したくなります。もちろん市として重要視している課題や市民の皆さんにとって求められていることをプロジェクト化する、というのが前提となりますけどね」と山下課長。

世界一のまちを目指し

現在、わくわく課では、子どもたちが主役となる「わくわくの種プロジェクト」や朝どれのハマチがその日の夜に都会の飲食店で味わえる「ハマチテック」など、既に40以上のプロジェクトが立ち上がり、多数のプロジェクトが今も進行中です。「東かがわ市は日本のトップじゃなく世界一を目指したい。ノンバーバル（非言語）なアートプロジェクトなども通して、世界中の人がクールだねと称賛を寄せる市を目指したい」と熱く語る山下課長。近い将来には、県外向けのメディアを立ち上げる予定です。

今後の課題は持続可能な組織づくり。現在は一部の人が情熱を持ってかなりの負担を引き受けています。「そもそも地域活性化を一部の人たちだけでやるというのがナンセンス。多くの市民に参加してもらう必要があるし、収益を上げ給与を支払える組織になる必要があります。また来年は、全国わくわく課を展開していきたいとも考えています。はじめの一步を踏んだ東かがわ市の好事例やプロジェクトを全国の方々から学ぶようにし、全国各地の地域活性化に活かせるようにしたい」と山下課長の構想は広がります。

行政から見たわくわく課

現在、東かがわ市役所では、デジタル推進室を設置し、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進を図っています。他方、わくわく課は、ウェブ解析を通じての産業振興などを推進する一般社団法人ウェブ解析士協会と協力し、東かがわ市と東かがわ商工会が主催の市内事業者向けデジタル化のオンラインイベント「デジタルタウン:東かがわDX」人々にやさしいデジタルタウンを目指して」を中心となって管理運営することで、その推進に拍車をかけました。

上村市長にわくわく課の活動を伺ったところ、「わくわく課は、市民の方々にまちづくりに対する主体性のきっかけを与えてくれました。一年前には考えられなかったほど、市民のみなさんがいきいきしています。それだけにぜひとも持続可能な組織にしていきたい。行政に頼りきらない、自立的で持続的な経済活動があつてこそその地域活性化だと、私は考えています。その実現のために、市が関わるべきところはしっかり関わってまいります」と語ってくれました。

わくわく課をクッション材として市役所と市民が理想的なまちづくりを目指す東かがわ市。まさに、今後の進展にわくわくが止まりません。



香川の先進企業の力を探る あの人に会いたい！

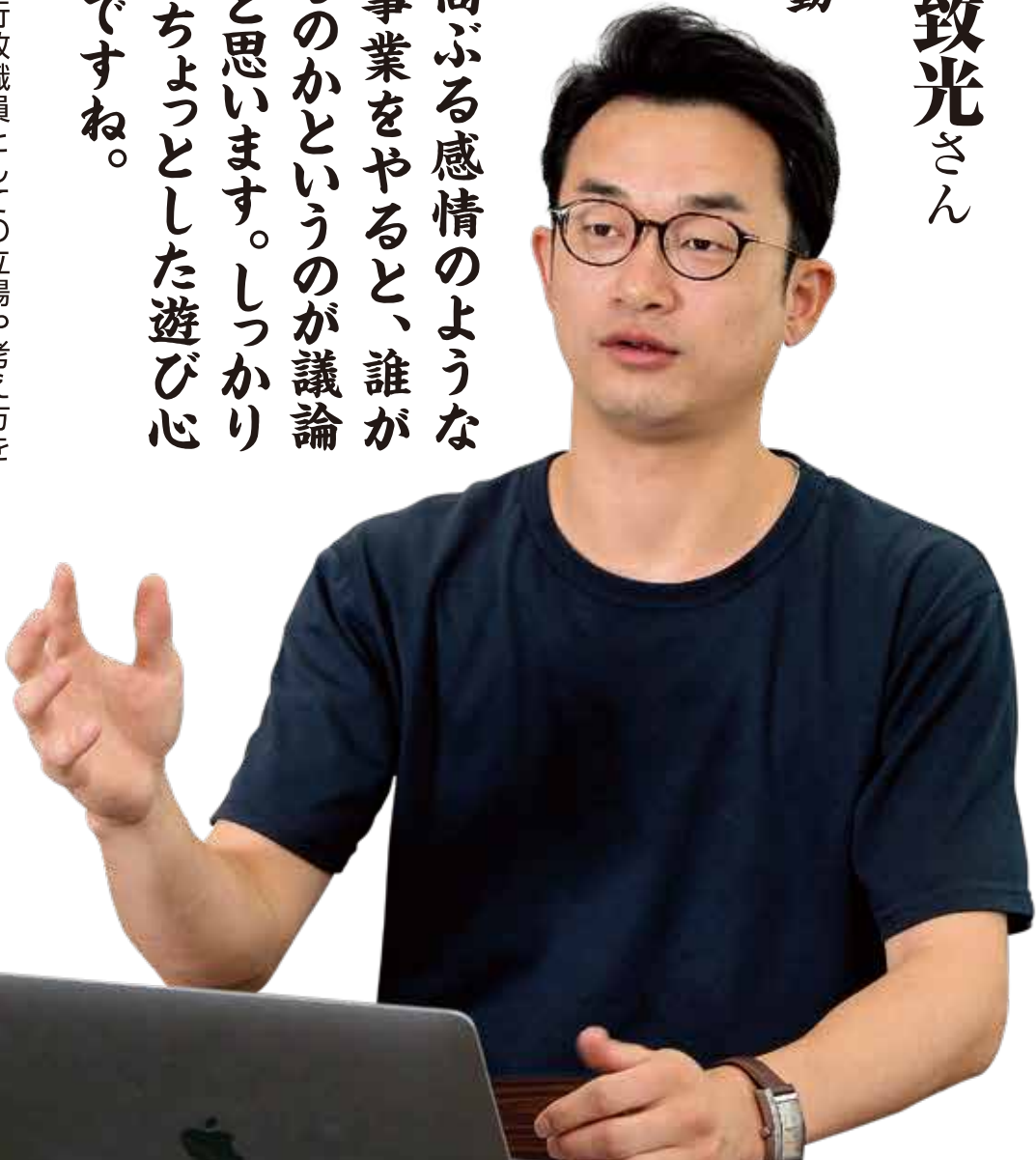
株式会社HYAKUSHO

代表取締役

湯川 致光さん

私も行政職員でしたので、行動原理上、組織上、難しいのはよく分かつているのですが、個人として、行政マンとして、ユーモアを持ってほしい。言い換えれば、「心躍る」「あくあくする」心が高ぶる感情のようなものを、持つてもらいたい。この事業をやると、誰がハッピーになって、どう面白くなるのかというのが議論の中にあると、民間と視座が合うと思います。しっかりと仕事をするという行政の中に、ちよつとした遊び心がエッセンスとして入るのは最強ですね。

神奈川県庁、香川県庁、高松空港株式会社を経て独立し、行政職員としての立場や考え方を十二分に理解した上で、中間支援組織のNPO法人「わがこと」のプロジェクトマネジャーや「丸亀市リノベーションまちづくり実行委員会」委員長を務め、「新しい公共をつくる」を掲げ2019年に株式会社「HYAKUSHO」を設立した湯川 致光さんにお話を伺います。





出張が多く、オフィスは香川県が魅力のある情報通信関連産業の育成・誘致を目指して整備したオープンイノベーション拠点「Setouchi-i-Base」のシェアオフィスを利用。

「Setouchi-i-Base」でオンラインイベント「THE UPDATE!～サポート高松の未来を考える～」(2021年7月)を主催。湯川さんと共に進行は小西真由さん、ゲストは香川大学経済学部教授、工学博士の西成典久さん。

■経営理念をお教えてください。

一言で言えば「新しい公共をつくる」。これまでは「社会はこうあるべきだ」というビジョンを掲げ、行政がトップダウンで主導権を握ってきた面があります。それでは各所に歪みが出てきて、官から民への動きが出てきました。しかし、民間に任せていたら、すべてうまくいくのかと言えば、そうではないというのが今の流れです。では、どうやってあるべき姿に作っていくのかというと、暮らしている人が、社会や地域がどうあれば良いかと考えて行く時代。行政も、民間企業も、そして地域も、三者三様に「こうあるべき」「こうあつてほしい」「こうあればもつと暮らしやすい」と考えて行くプロセス自体を作っていくのが「新しい公共」だと考えています。

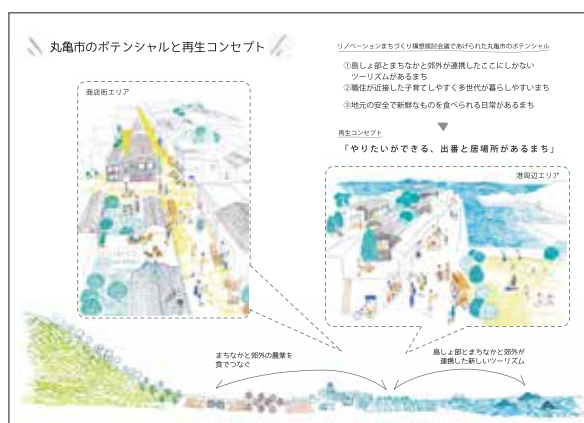
■社名の「HYAKUSHO」の由来などをお聞かせください。

「HYAKUSHO」は言葉としてネガティブな歴史があるということを理解した上で、ポジティブに捉えています。その昔、百姓といわれていた方は、建物の修繕もするし、道の普請もするし、冠婚葬祭があればそれぞれの役目をこなすというように、いろいろな役割を持ち、つまり百の

姓(かばね)を持っていました。ところが、現代人は職場での滞在時間が長く、色んなコミュニティに属しづらくなつてしまった。人にはさまざまな役割があつて、顔がある、そういう社会のほうが健全な気がします。さまざまな人がいろんな顔を持ち役割を持っている社会を創りたいとの思いを社名に込めました。

■貴社の事業内容や取組内容について教えてください。

主にエリアマネジメント領域とコンサルティング領域の二つがあります。エリアマネジメント領域では、丸亀市さんから「都市再生推進法人」の認定を受け、民間のフットワークを生かしつつ、バブリックで動くという形で中心市街地の都市再生に取り組んでいます。地元事業者さんもビジネスが非常に厳しくなったという感覚があり、特に二代目三代目さんは業態変換に悩んでいます。そこで、連合してまちづくり的な動きをし、短期的に売上を求めていくのではなく、中長期的に自分たちの住んでいる場所の価値を高めようと取り組んでいます。その活動は、企業のブランディングとなり、差別化につながります。



空家家の利活用を楽しく提案するイベント「空家Bar」。市民がまちなかに関わる一つのきっかけとなりました。

「やりたいことができる、出番と居場所があるまち」を目指し、株式会社HYAKUSHOが丸亀市と共に描く丸亀のまちなかビジョン。

もう一つのコンサルティング領域は、まさにビジネスの分野で、官民連携の事業です。官民連携と言っても、行政の行動原理や意志決定過程は民間のそれとは全く違い、

間に入るアドバイザーのような存在が必要です。例えば、公園の敷地内に有名なカフェがオープンするとなると、公共の土地を民間に貸すということになり、それなりの数の手続きや契約が必要です。そこで、どういう公園にしたいのか、どういう民間業者に来てほしいのかを伺いながら、公募資料の作成や契約のアドバイスなどの手続きをサポートします。行政は税金で運営しているので、しっかりとした手続きで公平性を確保し、かつ魅力化を図るお手伝いをするのが仕事になります。

会社を設立するまでに至った道のりをお聞かせください。

正直言うと、県庁職員時代は民間の気持ちが全くわかっていなかったと思います。ただ、わかりたいという気持ちはありました。「丸亀市リノベーションまちづくり実行委員会」の前は、丸亀市商店街組合さんと、店主さんたちと一緒にイベントを企画していました。地元の濃厚な人間関係の中で事業やイベントをやってきたことが、香川県での活動の原点かもしれません。商店街組合で、幅広い世代の方と一緒にイベントに取り

組んできたのは、自分にとっては良い経験でした。まさに現場感がありました。さらに、さまざまな人にまちづくりに関わってほしいという思いから、「新しい公共」をつくりたいと思います。

一方で、高松空港株式会社へ転職したことも大きかったです。行政の世界しか知らなかったのが、民間企業に飛び出してみたら、色々見えてきました。民間企業の利益のために自分の時間を使いたいのか、もつと公益のためにやれることがあるのではないかという想いは大きくなりました。こういった経験や転職があればこそ、自分でやってみようという気持ち芽生えてきました。今まで培ってきた経験が自分なりのエビデンスです。こういう社会があるべきだという理想の追求からスタートしましたので、ビジネスとして勝算があったわけではありません。当初は不安で眠れない夜もありました。

都市再生推進法人の指定を丸亀市から受けられています。どのような取り組みを行っているのかお教えてください。

具体的な取り組みの前段階として、重要なことがあります。まちづくり

に関わるアクターあるいはプレイヤーを増やしていくことです。その受け皿として先輩経営者さんと「丸亀会議」を主催しています。その丸亀会議で、塩飽諸島の本島で取り組みを始めています。

本島は非常に面白いところですが観光という目線ではまだまだ商品が作られていない。いわゆる着地型で楽しめる面が弱く、十分観光客を呼び込めていません。採算性の面で旅行会社さんのビジネスにはならないように、本島を活性化することを目的に地元事業者さんが連合で取り組みを始めました。そして、今年の10月からツアー商品の販売を「丸亀会議」で開始することになりました。まずは資金面のサポートや広報、間に立って行政のサポートをお願いするのも自社の役割です。事業者さんが事業に集中できるようにサポートしていきます。



株式会社HYAKUSHOが手掛けるプロジェクトの一つ「丸亀会議」。地元の民間事業者で地域を面白くする団体を主宰しています。

これからの「まちづくり」には何が重要だとお考えですか。また、行政側に求められることは何かお聞かせください。

最近、活動をしている中で気がついたキーワードがあります。それは「まちの記憶」。欧州はまちづくりにおいて優れていると言われますが、その理由は確かな「まちの記憶」が市民にあるからです。

どのまちにも誇るべき記憶はないのかと言えば、実はあるんですよ。知らないだけとか、見てないだけです。その記憶がみんなに共有されると、より良いまちづくりが進むと思います。

会社の将来像・今後目指していることをお聞かせください。

「新しい公共をつくる」ということに終わりは無いと思っています。ですから、今取り組んでいることは、「新しい公共をつくる」ことにつながっているのかを常に問い続けていきます。名刺にもパブリックディレクターと書かせていただきましたが、公共はどうあるべきか、公共性とはどういうものか、どうすれば具現化されるのかを常に考え実現していく存在が、パブリックディレ

クターです。民間企業だけでは無理ですし、行政だけでも無理。そこで必要なのがパブリックディレクター。今後は、そういった「公共を考え具現化する」人材を増やしていくような取り組みをしたいと思っています。

■休日はいかがお過ごしですか。

休日は小豆島に出かけています。県外から友人が来れば小豆島を案内していますが、特に四方指（しほうざし）展望台が好きですね。クライマーの友人に言わせると、山から海がこんなに近くに見えるところは他にはないらしいですよ。島には良い仲間もいますし、心癒やされます。

趣味は読書ですね。人生の恩師からも人生を豊かにするのは「人・本・旅」と教わりました。読書はさまざまな人の考えや知恵を知ることが出来ます。社会のあるべき姿は昔から論じられてきました。やはり世界の名著といわれる古典は好きですね。



趣味は読書とともに硬式テニス。大学時代は体育会で練習漬けだったとか。

県や市町の行政に感じていらっしやる場合がございますたら、お聞かせください。

県庁職員時代の自分自身もそうでしたが、物事を一面的にしか見ることができなくなっていました。

今は物事を多面的に見る必要を痛感しています。もっと具体的に言えば、さまざまな立場の人たちに寄り添っているかどうかということ。福祉部署でも観光分野でも同じです。カウンターパートの人がなぜそういう発言をするのか、その人たちにはその人たちの理由があります。その声に自分たちは寄り添えているのか。これは自分自身の反省でもあります。

さまざまな立場の人の思考が分かると、物事を多面的に見ることが出来ます。民間もまた行政がなぜそう考えるのか、発言をするのかというのを考えることで、より良い関係が築けます。

自治体職員に向けて、アドバイスをお願いいたします。

県庁時代から言っていることなのですが、一言で言えば「まちにダイブ」。

街には偶然性があります。最適化されていない街には混沌さがあり、スモールの中とかアルゴリズムの中では絶対に会えない思いがけない出会いがあります。名刺交換から始まる付き合い方であり得ない、人間性だけで勝負するフラットな関係も築けます。特に自治体職員の皆さんには、偶然性を感じる街にダイブしてほしい！街にダイブすることで自分の自治体の温度や空気がよくわかると思います。特に、場末のスナックはまちの縮図ですね。



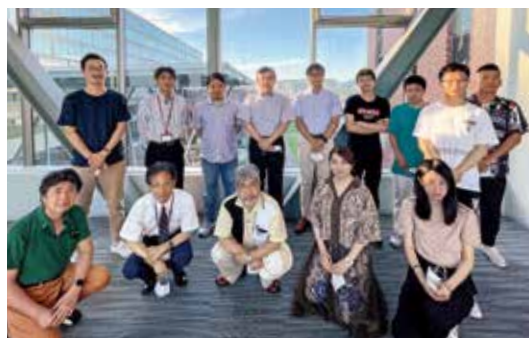
湯川 致光 (ゆかわ・よしあき)

東京都出身（香川県高松市在住）
昭和61年1月11日生まれ 35歳

- 平成24年 3月 東北大学大学院法学研究科 公共法政策専攻 修了(公共法政策修士)
- 平成24年 4月 神奈川県庁 入庁
- 平成26年 4月 香川県庁 入庁
- 平成31年 4月 高松空港株式会社 入社
- 令和元年 8月～ 株式会社HYAKUSHO (都市再生推進法人) 設立
- 令和 2年 4月～ 立命館大学政策科学研究科 博士後期課程 在籍 現在に至る。

本社所在地 香川県丸亀市通町52番地7

PROFILE



立命館大学で地域情報研究所研究員として活躍、また、同大学政策科学研究科博士課程で「官民連携の公共性」について研究を続ける湯川さん。大学院におけるゼミでの集合写真。



農政水産部 農業生産流通課
主任技師 笠井 愛

香川県産の魅力をぎゅっとお届け!! こだわりの農産物「さぬき讃シリーズ」が 誕生しました

「さぬき讃シリーズ」の誕生

香川県では、恵まれた気候と生産者の丁寧な栽培管理によって、全国に誇れる高品質な農産物が数多く生産されています。このような香川県産農産物の魅力をより多くの消費者に知っていただくため、香川県産の果物「さぬき讃フルーツ」、野菜「さぬき讃ベジタブル」、花き「さぬき讃フラワー」を束ねた「さぬき讃シリーズ」が誕生しました。イメージキャラクターやさぬき讃サンはなやか（花野果）大使などと連携して一体的にPRすることで、香川県産農産物のさらなる認知度向上と消費拡大に取り組み、「選ばれる農産物」を目指します。



①「さぬき讃フルーツ」 (制定：平成24年度)

香川県オリジナル品種を中心に、香川県が認定した生産者が栽培し、糖度など一定の品質基準を満たした果物。

②「さぬき讃ベジタブル」 (制定：令和2年度)

香川県内での栽培開始から約60年の歴史を誇る「レタス」や、作付け面積が全国第2位の「ブロッコリー」など、生産者※が旬や品質などにこだわって栽培した香川県産の野菜。

※香川県産野菜イメージアップ計画を作成し、かがわ農産物流通消費推進協議会の認定を受けた者

③「さぬき讃フラワー」 (制定：令和2年度)

香川県オリジナル品種のランキンユラス「てまりシリーズ」やカーネーション「ミニティアラ」など香川県内で栽培された花き。

販売促進活動や情報発信を担う イメージキャラクターやPR大使たち

親しみやすくわかりやすい情報発信を行うため、イメージキャラクターやPR大使を設定しています。

①香川県産野菜イメージキャラクター 「ベジさん」

「ヤサイ」が大好きな「サイ」がモチーフで、「軍手」と



「ゴム長靴」がトレードマークです。ベジさんのシールなどの貼付やのぼりなどの設置により「さぬき讃ベジタブル」をPRします。

②さぬき讃サンはなやか（花野果）大使
消費者に農産物の「旬」や「選び方」などを伝える販売促進活動や、メディアなどへの出演などにより、「さぬき讃シリーズ」の理解促進を図っています。



「さぬき讃シリーズ」イベント情報

農業生産流通課では、香川県内量販店で旬の香川県産農産物を取りそろえた『かがわ「旬のイチオシ」農産物フェア』や学校給食講座、「さぬき讃フルーツ」産地交流会など多くのイベントを開催しています。

Instagramでは「顔の見える」農産物をコンセプトに、イベントや生産者情報、生育状況などをリアルタイムに発信していきますので、ぜひご覧ください。

香川県HP 農業生産流通課

検索

Instagram @kagawa_nousanbutsu



過疎地域の持続的発展の支援に関する 特別措置法に基づく 過疎対策事業債の留意点について

市町からの

Q & A



政策部 自治振興課
主事 湯本 春菜

令和3年4月1日、「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」（以下「新過疎法」といいます。）が施行されました。新過疎法は、旧法である「過疎地域自立促進特別措置法」が令和3年3月末に期限を迎えることに伴い、引き続き過疎対策を講じるために制定された法律です。本稿では、新過疎法に基づく過疎対策事業債（以下「過疎債」といいます。）を起債する場合の留意点等についてご説明します。

新過疎法の趣旨について 説明してください。

新過疎法の趣旨は、その前文にある通り、過疎地域の自立に向けて、過疎地域における持続可能な地域社会の形成及び地域資源等を活用した地域活力の更なる向上が実現するよう、全力を挙げて取り組むことです。すなわち、新過疎法は、過疎地域の財政運営を支援する法律ではなく、過疎地域の持続的発展を支援する法律です。過疎地域に指定された市町村は、非過疎地域となることを目指し、新過疎法に基づく特別措置を活用することで、地域活性化等の取り組みを積極的に推進することが望まれます。

過疎債について 説明してください。

過疎債は、新過疎法に基づく特別措置の一つであり、過疎地域に指定された市町村が過疎地域持続的発展市町村計画に基づき実施する事業に関して、新過疎法第14条第1項及び第2項に規定する経費について地方債の発行が認められているものです。

過疎債の発行を検討する市町村

におかれては、新過疎法の趣旨に鑑みて、過疎債の対象とする事業の効果が過疎地域の持続的発展に資するものであるか、事業内容を精査することが重要です。

新過疎法の施行に伴い、 過疎債の要件に変更は ありますか。

対象事業については、以下の2つが追加されました。

- ①簡易水道施設であった水道施設（平成19年度以降の簡易水道事業統合により、簡易水道施設でなくなったもの）
- ②民間事業者が開設する「へき地医療拠点病院」及び「へき地診療所」に対する補助

また、他の事業に優先して同意等を行う事業の対象に、「公共施設マネジメント特別分」が追加されました。これは、公共施設等総合管理計画に基づいて行われる公共施設の統廃合を伴う集約化・複合化事業を指します。

過疎地域持続的発展特別事業（以下「過疎債ソフト分」といいます。）を起債するにあたり、どのような留意点がありますか。

令和3年度から、過疎債ソフト分の対象外経費が追加されたことに留意が必要です。

過疎債ソフト分とは、いわゆるソフト事業の実施につき市町村が必要とする経費に関して地方債の発行が認められているものです。

令和3年度地方債同意等基準において、「地域の持続的発展に資することなく効果が一過性である事業に要する経費」については過疎債ソフト分の対象外となることが明記されました。令和3年6月2日に総務省から発出された質疑応答によると、例えばイベントやプレミアム商品券による消費喚起策などは、事業の効果が将来にわたるといふ説明がない限り、一過性の効果にとどまると考えられる可能性があるとして示されています。

過疎債ソフト分の発行を検討する市町村におかれては、過疎債ソフト分の対象とする事業の効果が将来にわたる、「地域の持続的発展に資することなく効果が一過性である事業に要する経費」には該当しないことを市町村議会や住民に説明できるように、事業内容を精査していただく必要があります。

北海道 札幌市



まちづくり政策局政策企画部
政策調整課長

渡邊 萌さん



大通公園

人口減少・少子高齢社会への挑戦 ～さっぽろ連携中枢都市圏の取組～

札幌市では、関係市町村との密接な連携を通じて、活力と魅力あるまちづくりを推進しています。

1 札幌市の概要

北海道・石狩平野の南西部に位置する札幌市は、1922年8月1日の市制施行以来、近隣町村との度重なる合併・編入により市域を拡大してきました。1972年には政令指定都市へ移行し、市制100周年、政令指定都市移行50周年を目前に控える現在では、約198万人（道内人口の4割弱）が暮らす全国で4番目に人口の多い都市となっています。

大学や企業、医療施設、文化施設、行政機関等が集積しており、道内の流通の中心として道内各地で生産された特産品が集まるほか、都市公園数が政令指定都市の中で最も多いなど、緑も豊富であり、国内有数の観光地でもあります。

2 さっぽろ連携中枢都市圏

(1) 連携中枢都市圏の形成

本市は、2018年11月に「連携中枢都市宣言」を行い、2019年3月に、経済、社会、文化、住民生活等において密接な関係を有する11市町村（小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、



さっぽろ連携中枢都市圏ロゴマーク（学生公募により選ばれ、圏域内の12の市町村を星や音階で表す円と、「まち」と「まち」が美しいメロディーを奏でるというメッセージが込められています。）

恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町及び長沼町）との間で「さっぽろ連携中枢都市圏」（以下「さっぽろ圏」という。）を形成しました。さっぽろ圏は、道内人口の5割弱の人々が生活しているほか、道内事業所売上額の約55%（平成28年経済センサス活動調査）【総務省】を占めるなど、道内における中心的な役割を担っています。



北海道札幌市

●面積 / 1,121.26km²
●人口 / 1,975,800人
(R3年8月1日現在)

●HPアドレス
<https://www.city.sapporo.jp/index.html>

DATA

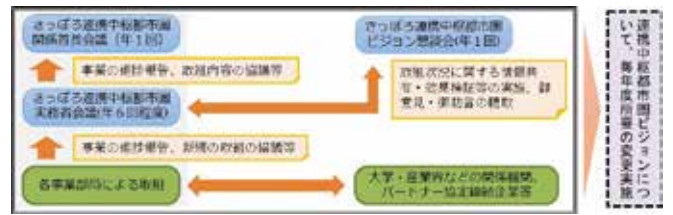
さつぽろ圏を形成した背景には、全国的な人口減少や少子高齢化の進行があります。今後、財源や担い手の不足等により、圏域内市町村の経済基盤や行政サービスの維持が困難となることが予想される中、活力を維持しながら魅力あるまちづくりを進めるために、将来を担う若者の流出を食い止め、道外からの人口流入を促すことが求められています。

そのため、圏域内の様々な資源を活用しながら、圏域内市町村が密接に連携・役割分担することによって、『住みたくなる』『投資したくなる』『選ばれる』『さつぽろ圏域』となることを目指しています。

(2) 計画の推進体制

本市は、さつぽろ圏の中長期的な将来像を連携市町村と共有し、その実現に向けた具体的な取組を計画的に推進するため、連携市町村と協議の上、2019年3月に「さつぽろ連携中枢都市圏ビジョン」を策定しました。

本ビジョンを実効性のあるものとし、効果的に施策や取組を進めていくため、圏域内市町村長による協議の場である「さつぽろ連携中枢都市圏関係首長会議」を設置するとともに、



計画の推進体制

に、その下に、取組の企画、調整、立案、効果検証等の実務的な議論等を行う「さつぽろ連携中枢都市圏実務者会議」を設置しています。

さらに、様々な要素が複合的に絡み合った横断的又は専門的な課題については、実務者会議の下にタスクフォースを時限的に設置することにより、課題解決に向けた検討を行うこととしています。

(3) 代表的な取組事例

続いて、さつぽろ圏における代表的な取組事例を紹介します。

①さつぽろ圏「ひとづくり」プロジェクト
『『まちづくり』は『ひとづくり』である』との考えの下、「さつぽろ圏『ひとづくり』プロジェクト」を推進しています。具体的には、企業版ふるさと納税等を活用して「さつぽろ圏人材育成・確保基金」に対する寄附



藻岩山から見た夜景

を募り、保育士等の人材不足問題を抱える職種や、圏域内の「食」「観光」「環境」等の幅広い分野の企業に就職した新卒者等に対する奨学金返還支援のほか、周産期救急医療従事者等のスキル向上に資する実地研修や、SDGsの視点を踏まえた人材を育成するための場の創出等を行うこととしています。

②公立夜間中学の共同活用

様々な事情により中学校での十分な就学機会が得られなかった方に対して「学び直し」の場を提供するため、来年度より北海道初の公立夜間中学を札幌市に開校することとしており、さつぽろ圏における調整の結果、連携市町村内在住の方も受け入れることが決定しています。

3 おわりに

今後これまでに経験したことのない人口減少・少子高齢社会を迎えようとする中で、住民福祉レベルを維持・向上するためには、各市町村が柔軟かつ実効的に連携し、分野に応じて適切な規模で持続的に行政サービスを提供していく必要があります。

さつぽろ圏における取組等を通じ、連携市町村との信頼関係をより一層深めるとともに、道都として高次都市機能を高めることで、本市のみならずさつぽろ圏、ひいては北海道全体の発展に貢献してまいります。



札幌市時計台

香川の まち歩き

大坂夏の陣において破壊された大坂城を再築するため、1619（元和5）年、徳川秀忠は巨大な城づくりを63藩64家の大名に命じました。そこで瀬戸内海の島々に次々と開かれた石切丁場。中でも当時の様子が色濃く残されているのが小豆島岩谷地区です。今回は同地区の石丁場跡から「天狗岩丁場」「豆腐石丁場」「八人石丁場」を巡ります。



悠久の時間が流れる島の 石丁場を巡る

小豆島町



長年、島の観光ガイドをしている松尾志郎さん（右）と小豆島町商工観光課主任主事の塩田琴未さん。

小豆島の東側、島で唯一の国道（436号）沿いと少し山側に入った所に国指定史跡の岩谷丁場が6カ所あり、その中の代表的な「天狗岩丁場」の入口に、「大坂城石垣石丁場跡（小豆島石丁場跡）」の案内石碑が建てられています。ここが、今回のスタート地点。早速、

小豆島観光ボランティアガイドクラブの松尾志郎さんから、1972（昭和47）年に石丁場としては日本で唯一の国指定史跡となり、2018（平成30）年に兵庫県の「東六甲石丁場跡」が追加され、兄

小豆島の東側、島で唯一の国道（436号）沿いと少し山側に入った所に国指定史跡の岩谷丁場が6カ所あり、その中の代表的な「天狗岩丁場」の入口に、「大坂城石垣石丁場跡（小豆島石丁場跡）」の案内石碑が建てられています。ここが、今回のスタート地点。早速、

弟史跡になった際に「石切丁場」の「切」が省略されてしまったことなど、秘められたエピソードも教わりながら遊歩道を天狗岩目指して登り始めました。1629（寛永6）年、徳川秀忠、家光へと二代にわたり10年の歳月をかけて完成した大坂城は58mもの高さがあり、石垣に使われた石は優に100万個を超え、といわれています（ちなみに豊臣大坂城は高さ39m）。



「天狗岩丁場」には、矢穴技法で種石を割ったときにできる「そげ石」や運ばれるはずだった「角石」が数多く残されています。5トンの石は山出しから船積みまで30人、50トンなら1,150人必要するといわれています。

天狗岩に向かう遊歩道の入り口には、2013（平成25）年に建てられたのち、日本遺産認定を記念してロゴマークが追加された石碑があります。



天狗岩丁場の遊歩道で最初に見えてくる「種石（割る前の元になる石）」。松尾さんの興味深い解説が始まります。



小豆島をはじめ備讃瀬戸の島々の多くは、良質な花崗岩と石切り技術により日本の建築文化を支えてきました。2019（令和元）年には、「知ってる？ 悠久の時間が流れる石の島～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～」として日本遺産に認定されました。



まっすぐにそびえ立つ美しい「豆腐石」。
当時の石工さんたちの技術の高さがうかがえます。

天狗岩丁場では、切り出された石が積み重なってできた隙間を通り抜けることができたり、石の上に立ってガイドを聞くことができたりと、間近で石の大きさや硬さを体感することができます。



花崗岩の節理に雨水などが侵入すると風化されてマサ土になるが、節理の間隔が大きいと風化しない部分が丸い石の塊となり、「コアストーン」と呼ばれています。



とがった大石が天狗のようにそびえ立っていることから名付けられたという「大天狗岩」。人と比べるとその巨大さが分かります。

次に向かったのは「豆腐石丁場」。国道から100mほど上がった山道の先に、豆腐のような角石がそびえています。この美しくまっすぐに割られた形は、当時の石工さんたちの卓越した腕の良さを示す逸品とか。

最後に向かったのは国道のすぐ横にある「八人石

の周囲を遊歩道が巡ります。

この岩谷地区は、良質な花こう岩が豊富で、急斜面のすぐ下が海。その海は水深が深く、石の船積みには最適な場所でした。さらに幕府の直轄地であったため容易に採石することができました。今し方までノミの音や石工さんたちのかけ声がこだまし、仕事半ばで放り出されたかのような岩たちがごろごろ転がっています。その石の多くには矢穴と呼ばれる四角い跡が見られます。石を割るためには、まず石の目に沿ってセツトウ(金づち)とノミで穴を開け、そこに鉄製の矢を差し込み上からたたくと、石が割れてはがれます。そうして割れた左右の端が「そげ石」、きれいな四角い石が「角石」「平石」、元になる石を「種石」と呼びます。その「種石」の一つがそびえ立つ「大天狗岩」です。石切場のシンボルとも言われ、高さ17.3m、幅7.8m、奥行き12.3m、重さ約1,700トン。この巨石の周囲を遊歩道が巡ります。

この巨大な城の築城に必要な石を切り出すのが西国の外様大名の仕事でした。小豆島の岩谷地区を管理したのは、筑前福岡藩の黒田長政、忠之親子です。そのため、石の表面には、黒田家の家紋と、石工の組や納入印を示す刻印がところどころ残されています。



探せばいくつも見つかる黒田家の家紋と思われる刻印。◎はその代表的なもの。

この巨大な城の築城に必要な石を切り出すのが西国の外様大名の仕事でした。小豆島の岩谷地区を管理したのは、筑前福岡藩の黒田長政、忠之親子です。そのため、石の表面には、黒田家の家紋と、石工の組や納入印を示す刻印がところどころ残されています。

ガイドの松尾志郎さんは、勉強を重ねてこられた小豆島が大好きなガイドさん。隠れた物語にも心躍る石丁場跡巡り。ぜひとも志郎さんが代弁する石の声に耳を傾けてください。

ガイドの松尾志郎さんは、勉強を重ねてこられた小豆島が大好きなガイドさん。隠れた物語にも心躍る石丁場跡巡り。ぜひとも志郎さんが代弁する石の声に耳を傾けてください。

そこには、真つ二つに割れた大きな残石が。ここでは九人の石工さんたちが作業をしていましたが、大石の下敷きになって八人の方が犠牲になったと言われています。この場に限らず、多くの人々の汗と涙がしみ込んだ石丁場。その苦勞を礎に、美しい石垣が築かれました。感謝と冥福の心を込めて手を合わせ、岩谷地区の石丁場を後にしました。

「天狗岩磯丁場」や「南谷丁場」「亀崎丁場」があります。丁場跡巡りで興味深いものの一つが、石に残された刻印です。それぞれの場所ですまざまな刻印を見つけることができますが、中でも「八人石丁場」は面白い刻印があることで知られています。また、国道から見える小広場には供養塔が建てられています。



「八人石丁場」の名前の由来となった八人の石工さんが命を落としたという悲しい物語が伝わる採石現場。



面白い刻印が見られる「八人石丁場」。これは井桁の刻印か。ほかにも渦巻きのようなもの、石工さんの組と思われる「たくみくみ」という文字も目にするすることができます。

「小豆島観光ボランティアガイドクラブ」問い合わせ先

小豆島町役場 商工観光課 ☎0879-82-7021

香川の自治に新しい力 New Face

はじめまして

善通寺市
市民課
山下 日菜乃さん
やました ひなの



■あなたのチャームポイントは？
健康です。病気や怪我はめったにありません。これからも活力を持って活動していきます。

■善通寺市のいいところは？
人々が穏やかで優しさにあふれているところ。市役所に訪れる方々から毎日たくさん「ありがとう」をいただきます、心が温まります。

観音寺市
高齢介護課
尾藤 優佳さん
びとう ゆか



■目指す人物像は？
心に余裕のある人。自分の意志を持ちつつ、常に周囲の声に耳を傾けられる人になりたいです。

■観音寺市をこうしたい！
すべての年代の方々が、ずっと住みたいと思うことができる活気あるまちにしたいです。

さぬき市
総務課
平井 菜摘さん
ひらい なつみ



■今、熱中していることは？
韓国ドラマにはまっています。祖母と共通の趣味ができて、とても嬉しく思っています。

■さぬき市のいいところは？
豊かな自然に囲まれた、大窪寺や大串自然公園、津田の松原などの魅力あふれる名所がたくさんあるところです。

東かがわ市
税務課
安部 俊貴さん
あべ としき



■あなたのチャームポイントは？
寝癖が酷くて、毎朝ライオンみたいな髪型になることです。

■東かがわ市をこうしたい！
子どもから高齢者まで様々な方の心配事を減らし、より住みたいと思えるような場所にしていきたいです。

三豊市
建設港湾課
藤田 幸志郎さん
ふじた こうしろう



■目指す人物像は？

市民の方々から信頼され、部署内で頼られる人望の厚い人物を目指します。

■三豊市をこうしたい！

三豊市の更なる魅力を多くの人達に知ってもらい三豊市の豊かさを実感できる都市にできるよう力を尽くしたいと思います。

土庄町
商工観光課
丸井 彩華さん
まるい あやか



■あなたのチャームポイントは？

陸上競技で培った粘り強さです。何事も諦めず最後まで全力で取り組みます。

■土庄町のいいところは？

地域の交流や支え合いがあふれているところです。まちを歩いていると、挨拶が飛び交い、笑顔もあふれる明るいまちです。

三木町
教育総務課
近藤 巧哉さん
こんどう たくや



■目指す人物像は？

幅広い知識を持った人になりたいです。特に三木町に関する情報は、検索エンジンに負けないくらい詳しくなりたいです。

■三木町をこうしたい！

これまで以上に誰もが住みやすいまちにしたいです。そしてその良さを町内外の多くの方々に広めていきたいです。

直島町
教育委員会
秋友 佑斗さん
あきとも ゆうと



■今、熱中していることは？

ウエイトレトレーニングです。体をもっと大きくできるように鍛えています。

■直島町のいいところは？

「赤かぼちゃ」や「地中美術館」などといった有名な観光スポットが多いところです。インスタ映える場所も多くあります。

子どもたちが自信を持って
好きと言える直島!!

うい・らぶ・なおー

うい・らぶ・なおしまりーダー
サブリーダー

リ―ダー 中根 清孝さん
サブリーダー 堀口 容子さん

ウミホタル



直島の自然を守り、より良い未来につな
げたいと活動を行っている住民グループ
「うい・らぶ・なおしま」。その始まりは、
平成14（2002）年から2年にわたり
行われたワークショップでした。「直島の
明日と一緒に作ってくれる人」を募集また
は依頼し、集められたメンバーは約20人。
『自然』と『食』を考える二つのグループに
分かれて活動を行っていました。その当時、
それぞれグループでリーダーを任されていた
のが、現在「うい・らぶ・なおしま」リーダー
の中根さんとサブリーダーの堀口さんです。
今では『自然』も『食』も一
緒になって、島の未来に役
立つ活動を行っています。

ワークショップ当時から
残っているメンバーはお二
人だけだそうです。現在
は30名以上の会員が名を
連ね、香川大学直島地域
活性化プロジェクトのみな
さんも仲間に加わり、100人



に一度は宮浦港近くの「エコおしま」で定例会を開催し、続いている「エコTシャツアーおしま自然探検隊」などのんでいます。

Tシャツ展」は、チラシやイン直島をモチーフあるいはイを募り、その絵をプリントを島内の「海の駅」または「などに展示するイベント。ボトルを再生したTシャツを使っていました。現在は無農薬で育てられたオーガニックコットンのTシャツを使う、まさにエコなアート展です。コロナ禍でなければ、ご覧になったみなさんに投票していただき最優秀作品を決定。最優秀作品と各賞に選ばれた方々に直島の特産品が贈られ

ます。参加料は無料、展示された上質なTシャツも参加者それぞれにプレゼントされるので、参加者にはお得な「エコTシャツアート展」です。

「なおしま自然探検隊」は、小学生を中心に四国新聞などで参加者を募り、海の自然やウミホタルを観察しています。

「子どもの頃と比べ驚くほど生き物が減少しました。磯も埋もれてしまうなど貴重な自然が失われつつあります。子どもたちにも自然が失われることを知り、直島の素晴らしさを守り続ける活動の後継者として育ってもらいたい」と語る中根リーダー。堀口サブリーダーからは「子どもたちが自信を持って好きと言える直島にしたい!」と熱い言葉が返ってきました。まさに「うい・らぶ・なおしま」、直島愛に燃えて活動を続けるみなさんです。

DATA
うい・らぶ・なおしま事務局
☎087-892-2225
(直島町役場 環境水道課)

ういらぶ・なおしま事務局
☎087-892-2225
(直島町役場 環境水道課)

ハロウィン ジャンボ

5億円

ハロウィン ジャンボ 5千万円

当せんの
チャンス
広がる

1等前後賞合わせて5億円
1等3億円、前後賞各1億円

1等前後賞合わせて5,000万円
1等3,000万円、前後賞各1,000万円

この宝くじの収益金は
市町村の明るいまちづくりや
環境対策、高齢化対策など
地域住民の福祉向上の
ために使われます。

2つのジャンボで
欲張りハロウィン。

ネット購入は
こちらから！



宝くじ公式サイト
<https://www.takarakuji-official.jp/>

9月22日(水)

発売期間 9月22日(水)～10月22日(金) 抽せん日 10月29日(金)

同時
発売

各1枚 300円

2021年 新市町村振興宝くじ

公益財団法人 香川縣市町村振興協会